

---

# 戦いの理由

成無己

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

戦いの理由

### 【Nコード】

N1979C

### 【作者名】

成無己

### 【あらすじ】

何も見えない暗闇。男は何が起こるか全てを知っている。彼の戦う理由は……。

暗闇の廊下、何も見えないけど全てを知っている。

コンクリートむき出しの床を革靴が規則正しく敲く。自分の足音が無機質すぎて遙か遠くに聞こえる。

あと六歩で自分が死ぬことを、その男は知っている。

「毎晩見たんだ」

男は四歩進んで、右腕を真横に伸ばす。右手には銃が握られている。顔は正面を向いたまま、引き金を引く。

一瞬の銃声。

完全な暗闇、むろん男にも見えるものは何もない。

一つ遅れて、何かが倒れる音がした。まるで人が倒れるような音。確認できないほどに闇は濃い。

「全部知っている」

そこに罠がある。

足元にはピアノ線が張られ、引っかかると上から劇薬が落ちてくる。

あと一步の距離で立ち止まり、五歩下がる。

着ていたスーツを脱いで、前に放り投げる。

直後に何か液体が落ちた音がした。

コンクリートが煙を上げて溶けているのに、煙すら闇に塗りつぶされる。

すぐにひどい臭いが漂い始める。

「はは、自分が溶かされる臭いに比べれば……」

男はさらに進む。

待ち受ける全ての者を殺し、全ての罨を破壊して。

ただ、男は肉眼では何も見えていない。

それほどまでに闇は濃い。

そこは忘れ去られビル郡、その中にある、もはや崩れ始めている  
と言える高い建物。

電気など通っているわけもなく、夜の闇と同化している。

男はその中にいた。

男が部屋の前で止まり、扉を開けた。

建物は十五階建てで、部屋などいくつあるかわからない。

それでも男は何の迷いもなくその階の、その扉を開けた。不思議  
なことに、中は電気がついていた。

中は意外に狭く、天井、床、壁、全てがコンクリート。見た目の  
圧迫感が息苦しい。

そこに四人の男、椅子に座っていた。

四人は特に驚きもせずに入ってきた男を迎える。皆三十代ぐらい  
だろうが、それぞれ年が離れているようには見えない。

全員がスーツを着ている。

その内の一人が立ち上がった。

「ようこそ。やっと現実で会えた」

そうして今入ってきたばかりの男に、笑顔で握手を求めた。

男は無表情でそれに応える。

「では、ここからも予定通りに」

握手をしてきた男が言う。それを合図にするように残りの三人が  
立ち上がる。今部屋にいる五人が同じ方向を見る。

部屋にはもう一つ扉があった。

「でも、夢と現実の違いは違うものですよ」

最後に入ってきた男の言葉が終わるのと、銃声が四つ響き始めたのは同時だった。

四人の男達はテレビのスイッチを切るように、その生命を断ち切られた。

撃った男は一人で扉を開ける。

中は二畳ほどの大きさで、その中央にはベビーベットがあった。

その中で、一人の赤ん坊がすやすやと寝息を立てていた。

男が静かに赤ん坊に語る。

よう、実はな、さつき俺が殺した四人と俺。この五人はな、お前さんを守るためにここに集まったんだ。

始まったのは五年くらい前だよ。俺はさ、夜に夢を見るようになった。

なんでも未来にいる奴がさ、俺に言うんだよ。

「赤ん坊を守ってほしい」  
って。

おまえ、未来ですげー発見をするらしいぜ。そりゃもう、地球がひっくり返るくらいい。

ただ、それをよく思わない奴もいるらしくてよ、そいつらにしてみれば、おまえは悪魔以外の何者でもないんだってさ。

それでだ、その発見てのはお前以外にはできないことらしい。

で、未来の人たちは過去に物を飛ばすことはできないけど、意思を飛ばすことはできる。

その結果、今日お前をここに誘拐したのは、未来でお前を快く思っていない奴らの意思を受けた奴だ。

でも、それはおまえ賛成派には筒抜けで、すぐに対策が練られた。

それが俺を含んだ五人だ。

俺達は五年間シュミレーションしたんだ。ここでの戦いを、夢の中で。

考えてみるよ、五年間だぜ。

毎晩毎晩、眠りに入ると戦いが始まるんだ。しかも、恐ろしくリアル。

それは自分が死ぬか、お前を助け出すかのどちらかじゃないと眠りが覚めない。

おかげで俺の精神はぼろぼろだ。そこから全てが狂いだしたんだ。精神不安定で仕事がつましくわけもなく、誰かに相談しても頭がおかしいと言われる。

しかもだ。

夢の中で会うあとの四人に言っても、

「もう少し、俺達は選ばれたんだ」

だとよ。頭おかしいんじゃないの？

おれはさ、決めたんだよ。

たかだか何年か先の世界に住んでるって理由で、偉そうにしてる奴らにくらわしてやるって。

だからさ、俺はおまえを助けない。

ホントはさ、ここに来ないだけでもよかったんだが、あの四人にもくらわしてやりたかったしさ。

ま、何よりおまえの顔を一度拝みたかったていうのもあったんだ。満足したよ。

じゃ、帰るわ。

今日は疲れたんで早めに寝るか……。

夜の暗闇が徐々に色を帯び、星々はその輝きを失い始める。

東の空が淡く焼け、建物に影を造る頃になっても、結局その建物

からは誰も出てこなかった。

「あー、帰りはシュミレーションしたことなかったわ」

その小さな声が、その建物の中で聞こえた最後の声になった。

**（後書き）**

感想、ご指摘等ありましたらよろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1979c/>

---

戦いの理由

2010年10月9日21時56分発行